

見学調査報告書

テーマ : アグベルにおける革新的アグリビジネスモデルの展開
ゼミ名 : 木立 真直ゼミ
調査日 : 2023年1月26日(木)
調査先 : アグベル株式会社
授業科目名 : 演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅲ・Ⅳ
参加学生数 : 15名(3年)、9名(4年)

調査の趣旨(目的)

現在、日本のアグリビジネスの先進的モデルとして注目されているアグベル(株)の六次産業化や輸出戦略について学ぶことで、流通・マーケティングの一般理論だけでは把握できない実際の企業の戦略の最新の動向についての理解を深める。より具体的には、次世代のアグリビジネスの先駆的企業として、どのような事業活動を展開しているのか。そのビジネスモデルの特徴を理解し、同時に、今後の農業問題の解決方策、食料自給率向上の課題について学ぶ。

調査結果

今回の企業訪問では、次世代の農業経営ならびに農業市場の拡大を目指す新たなビジネスモデルを打ち出し、成長を遂げている企業であるアグベル株式会社のケースについてお話を伺った。

アグベル株式会社は、農家としてぶどうの生産から出荷や販売に至る業務を担うだけでなく、直販や輸出などの独自のバリューチェーンの構築に取り組んでいる。これまでJAが主に設置してきた選果場を自ら設置・運営し、地域の耕作放棄地を自らの経営に取り込むことで、大量ロットのぶどうの生産と供給を実現している。また、海外への輸出事業も盛んに行っている。製造だけでなく、中間流通機能も全て自社で担うことにより、品質の高いぶどうを短時間で海外へ届けている。

学生にとって印象的であったことの1つは、就農支援に関する取り組みある。アグベル株式会社は農業における経営者の高齢化や後継者の不足の問題を解決するため、将来、農業を含む新規ビジネスに挑戦したい新規就農者を支援するための取り組みを行なっている。新規就農希望者は、同社に勤務しながら、ぶどう生産が収益化するまでの3年間を通して生産方法や独立に関する知識を習得する。あわせて、地域農家との交流を通して、信頼関係を構築することで、地域ぐるみでの手厚いサポートを受けることが可能になる。アグベル株式会社の就農支援システムは、若者の農業人口の増加と経営の自立化に貢献できる取り組みであることが理解できた。

以上のように、アグベル株式会社ではバリューチェーン開拓や就農支援など、農業の新たな視点に目を向けた様々なプロジェクトを多面的に展開している。今後の農業の発展の方向性の1つのあり方について学ぶ貴重な機会となった。

